教職員の救急対応能力を高める研修の工夫と改善

１　設定理由

２０１２年１２月に調布市で起きた食物アレルギーによる死亡事故を受け，事故を防ぐための体制づくりの強化が求められた。そこで，大多喜町保健部会は「食物アレルギー対応マニュアル」の作成を関係組織に働きかけた。子どもたちが安全・安心な学校生活を送るためにも，教職員の救急対応能力の向上は重要である。そのために，まず，マニュアルの中に「教職員の研修」を位置づけて研修の機会を確保した。

そして，食物アレルギー対応の研修にとどまらず，心肺停止や学校で起こりうるけがの対応についての研修も加え，継続的に行い，評価し，次に向けて改善を重ねることで，教職員の救急対応能力が高まると考え本主題を設定した。

２　仮説

教職員の救急対応能力を高めるための研修を位置づけ，継続的に，改善を重ねて行っていけば，教職員の救急対応に対する意識と実践力が向上するであろう。

３　研究内容

（１）シミュレーションをとりいれた研修の実施
（２）視聴覚教材をとりいれた研修の実施
（３）アクションカードをとりいれた研修の実施
（４）要望をとりいれた研修の実施
（５）実施年度による研修前後の意識調査の比較

４　結論

（１）食物アレルギー対応マニュアルに研修を位置づけたことにより，職員研修を定着させることができた。また，工夫を加えた研修を繰り返したことにより，教職員の救急対応に対する意識が高まった。
（２）場面を設定したシミュレーションを，役割分担を代えて継続的に行ったことで，教職員が体験を活かして役割を理解し，迅速に行動することができるようになった。
（３）アクションカードを再検討するとともに，研修内容を工夫し，マンネリ化を避けながら継続的に行っていくことが必要である。

夷　隅　支　部
大多喜町立大多喜中学校
鈴　木　教　予

教職員の救急対応能力を高める研修の工夫と改善

Ⅰ　主題設定の理由

２０１２年１２月に起きた食物アレルギーによる死亡事故を受け，緊急事態に備えた体制づくりの強化が求められた。当時，大多喜町には食物アレルギー対応マニュアルがなくエピペンを持参している児童・生徒もいなかった。また，事故発生時の校内体制も年度当初の職員会議で確認する程度であった。

救急対応の研修に関しては，中学校区で水泳指導の前に「心肺蘇生法講習会」を行っていた。内容は，消防署に依頼し，ＡＥＤを含めた１時間程度の講習だった。

２００８年１月の中央教育審議会答申「子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するための学校全体としての取組を進めるための方策について」の中で，「子どもの現代的な健康課題の対応に当たり，学級担任等，学校医，学校歯科医，学校薬剤師，スクールカウンセラーなど学校内における連携，また，医療関係者や福祉関係者など地域の関係機関との連携を推進することが必要となっている中，養護教諭はコーディネーターの役割を担う必要がある」と書かれている。

まさに，食物アレルギーという現代的な健康課題に対応するため，養護教諭が専門性を活かして解決に向けたとりくみが求められた。大多喜町保健部会は，この機会をチャンスと捉え，町教育委員会と町校長会に働きかけ，至急「食物アレルギー対応マニュアル」を作成するよう要望した。また，子どもたちが安全・安心な学校生活を送るために，教職員の救急対応能力は重要である。そこで，マニュアルの中に「教職員の研修」を位置づけ，研修の機会を確保した。

そして，食物アレルギー対応の研修だけではなく，心肺停止や学校で起こりうるけがの対応についての研修も加え，継続的に行い，評価し，次に向けて改善を重ねることで，教職員の救急対応能力が高まると考え本主題を設定した。

Ⅱ　研究仮説

教職員の救急対応能力を高めるための研修を位置づけ，継続的に，改善を重ねて行っていけば，教職員の救急対応に対する意識と実践力が向上するであろう。

Ⅲ　研究目標

教職員の救急対応能力を高める

Ⅳ　研究経過　　㊙全体研修（町教育研究会）㊥校内研修

２０１３年度	食物アレルギー対応マニュアル完成（研修を位置づける）
２０１４年度	㊙㊥シミュレーションをとりいれた研修（食物アレルギー・心肺蘇生）
２０１５年度	㊥視聴覚教材をとりいれた研修（食物アレルギー）
２０１６年度	㊥視聴覚教材をとりいれた研修（食物アレルギー・頭頸部外傷） ㊙要望をとりいれた研修（アイシング）
２０１７年度	㊥アクションカードをとりいれた研修

Ⅴ　研究の全体像

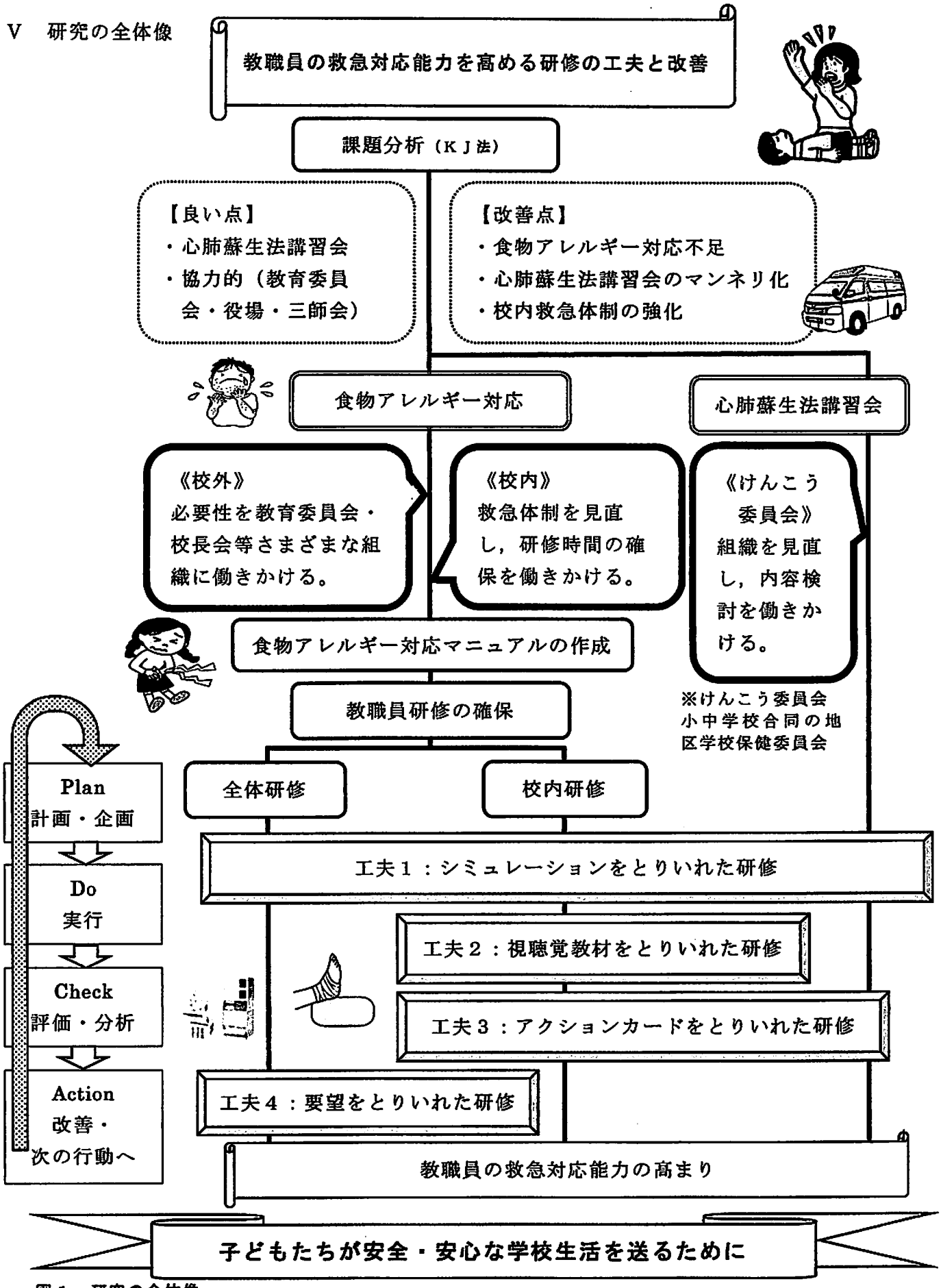


図１：研究の全体像

Ⅵ　研究内容　　○よかった点　●反省点　⇒改善点

1　シミュレーションをとりいれた研修（工夫１）

実践力を向上させるための手立ての一つとして，場面を想定して行動するシミュレーションを研修にとりいれた。

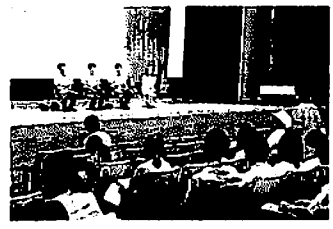
（１）食物アレルギー全体研修（町研教育講演会：町公民館大ホール）　２０１４年８月

ア　目的　町内の教職員や保護者が，食物アレルギーの正しい知識と対応を学ぶ。

イ　内容　・アレルギー専門医による講話

・エピペン実習

・代表者によるシミュレーション（医師・消防士・教職員）



ウ　評価　○町教育研究会で実施したことにより，町内全教職員が研修でき，食物アレルギーについての知識を得ることができた。（資料１）

○医師や消防士を交えたシミュレーションを行ったことにより，正しい対応を確認することができた。

●各学校の実態に合わせた研修が必要。⇒校内研修実施。

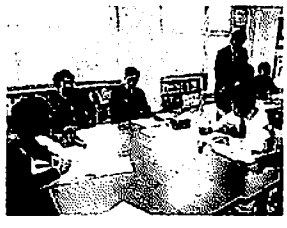
●対応の順序がわかりにくい。⇒対応時系列のわかる表を作成。（資料２）

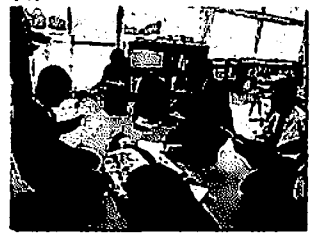
（２）食物アレルギー校内研修　２０１４年～２０１７年

ア　目的　各学校の校内体制を確認する。

イ　内容　・校内の食物アレルギー対応が必要な児童生徒の確認

・時系列を明確にしたシミュレーション（Ａ校の実践）





ウ　評価　○各学校の校内体制を確認することができた。

○役割の時系列の表があり，全体の流れが確認できて対応しやすかった。

●記録用紙が書きにくかった。⇒保健部会で検討し，改善（資料３）

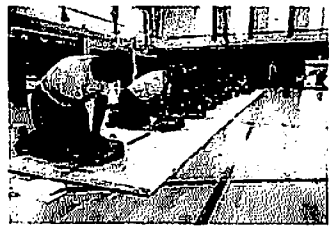
●養護教諭がいない時の判断が難しい。⇒研修の継続（研修の位置づけ）

●エピペン保有者がいなく，緊迫感がない。

（３）心肺蘇生法講習会（中学校区けんこう委員会事務局主催）　２０１４年～２０１７年

ア　目的　心肺蘇生法の講習に加え，学校で起こりうるけがの事例に対応する能力を養う。

イ　内容　プールでおぼれている児童や頭頸部外傷の生徒の対応（引き上げ，搬送，心肺蘇生，救急車要請）



ウ　評価　○実際に救急隊員への引き継ぎまで行ったので緊迫感があった。

○水中から引き上げてから搬送法を行った。救急隊員から方法を教えていただき，簡単にできることが分かり驚いた。

●役割分担のカードはあったが，動きがわからなかった。

●誰もが対応し，行動できるためのカードを作成する必要がある。⇒個々の役割に対する具体的指示が書きこまれた「アクションカード」の作成。

●シミュレーションをとりいれた研修から見えた課題

・各学校の実態に合わせた研修を行う。

・運動誘発性アナフィラキシーや新規発症者の対応に備えた研修を行う。

・誰もが（養護教諭不在時でも）対応できるアクションカードの必要性。

2　視聴覚教材をとりいれた研修（工夫２）

教職員の関心を高め，正しい知識を得ることができる研修内容を検討し，実施した。特に視聴後の話し合いの部分を重視した。

（１）文部科学省のＤＶＤ（学校におけるアレルギー疾患対応資料）を用いた校内研修

食物アレルギー　２０１５年８月（資料４）

ア　目的　ミニドラマを視聴し，職員間で話し合い，正しい対応を確認する。

イ　内容　・ＤＶＤ視聴（ミニドラマ：適応できなかった例）

・各学校の実態に合わせたシミュレーション（資料５）

ウ　評価　○研修により，緊急時の判断や校内体制・役割への理解が深まった。（資料６・７）

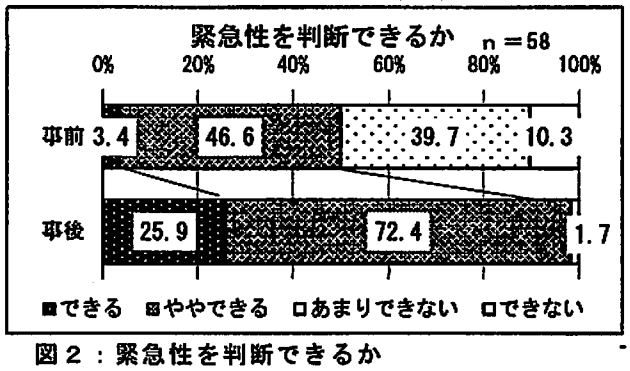


図２：緊急性を判断できるか

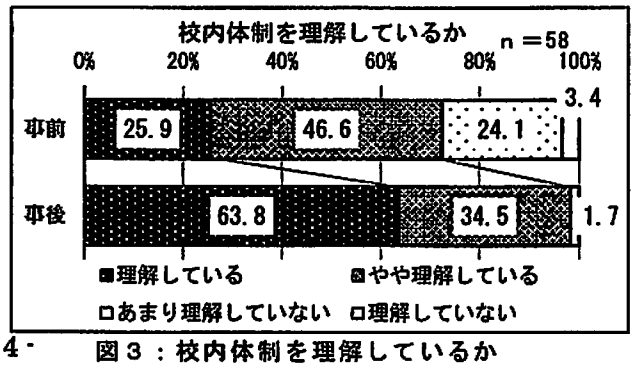
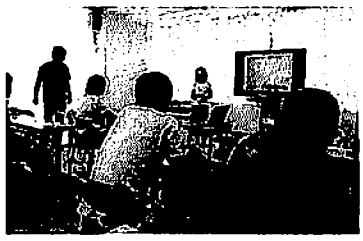
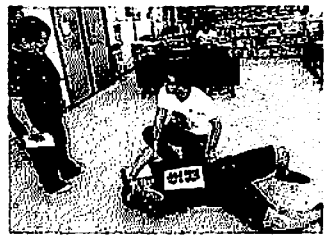


図３：校内体制を理解しているか

○ＤＶＤの構成がわかりやすく，ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝの実施前に見たので正しく対応できた。
○動いてみるとできない箇所が明確になり，繰り返しの研修の必要性を感じた。
●研修を継続して行うためにも，違う内容のＤＶＤがあるとよい。⇒今後の研修会の課題。

（２）日本スポーツ振興センターの資料を用いた校内研修　頭頸部外傷　２０１６年８月
ア　目的　救急対応が必要な場面を想定して，教職員の意識を高める。
イ　内容　・救急時の校内体制の確認
・体育館で頭頸部外傷発生時の救急隊員へ引継ぐまでの対応

ウ　評価　○映像資料に緊迫感があり，真剣にとりくむことができた。
○学校に合わせた研修を行うことができた。
●台本があると，言葉を追ってしまい，与えられた役割のみに集中してしまう。⇒全ての役割を把握できるアクションカードの作成

●視聴覚教材をとりいれた研修から見えた課題
・毎年行うことの必要性と時間の確保。マンネリ化を避けるための内容検討。
・アクションカードを用いた研修の検討。

３　アクションカードをとりいれた研修（工夫３）

台本を用いたシミュレーションの反省点を活かし，救急時を想定した「訓練」でも「実践」でも誰もが対応でき，迅速に行動できるためのカードを作成して研修を行った。

（１）「救急時の対応図」の再検討（資料８）

シミュレーション訓練時に使っていた「救急時の対応図」を改善し，アクションカードが必要な場面を入れた（図４）を作成した。

アクションカードを作成するにあたり，夷隅郡市広域市町圏事務組合消防本部大多喜分署の救急救命士に協力を得た。

【救急救命士からのアドバイス】
・心肺蘇生法と同じ流れを考える。⇒異変に気付いた時に，反応ありと反応なしの対応を入れる。（状態に関わらずＡＥＤは持参する。）
・連絡をとるための電話は複数必要。⇒携帯電話は現場に複数持参する。
・できるだけ多くの教職員を招集する。⇒校内放送を入れる。
・個人情報が必要。⇒健康調査票を現場に持参する。

シミュレーションの度に改善点が見つかり，変更して現在の改訂版に至った。（図５）

《緊急時の対応》

①発見

◎ 第一発見者が異変に気づく

反応の確認『大丈夫ですか』（肩をたたく）

『だれか，来てください。』

誰か来てください。

あなたは１１９番通報をしてください。

②連絡

◆ 反応なし

『あなたは，職員室に行って，１１９番通報と応援の先生を呼んでください。』

◆ 反応あり

『あなたは，職員室に行って，応援の先生を呼んでください。』

職員室へ

③リーダー

《職員室》

・教職員の招集（校内放送）　・ＡＥＤを持つ　・携帯電話を持つ

『（どこで）で○さんが（どうした）。来てください。』

◆反応なし

リーダー『あなたは，１１９番通報をしてください。』

『あなたは，ＡＥＤを持ってきてください。』

◆反応あり

リーダー『あなたは，携帯電話を持ってください。』

『あなたは，ＡＥＤを持ってきてください。』

④校内放送

『連絡。職員は○○に集まってください。』

⑤ＡＥＤの準備

現場へ

《現場》

リーダー：役割分担を指示（アクションカードを配る。）

『あなたは○○をしてください。（指示）』

⑥手当て　⑦１１９番通報と救急車の誘導　⑧保護者への連絡　⑨心肺蘇生

⑩記録　⑪健康調査票　⑫エピペン　⑬他の生徒の対応

救急隊へ引き継ぐ

・事後対応や措置をする。

・症状や状況・処置について時系列で記録し，管理職に報告する。

・大多喜町教育委員会に報告する。

・アクションカードを回収する。

※Ｐ７の心肺蘇生法講習会で使用

図４：緊急時の対応図

《救急時の対応図》（改訂版）

①発見

◎ 第一発見者が異変に気づく

反応の確認『大丈夫ですか』（肩をたたく）

『だれか，来てください。』

誰か来てください。

あなたは１１９番通報をしてください。

②連絡

◆ 反応なし

『あなたは，職員室に行って，１１９番通報と応援の先生を呼んでください。』

◆ 反応あり

『あなたは，職員室に行って，応援の先生を呼んでください。』

職員室へ

③リーダー

《職員室》『（どこで）で○さんが（どうした）。来てください。』

◆反応なし

リーダー『あなたは，１１９番通報をしてください。』

◆反応あり・なしに関わらず

リーダー『あなたは，校内放送をしてください。』

『　〃　ＡＥＤを持ってください。』

『　〃　健康調査票を持ってください。』

『　〃　携帯電話を持ってください。』

④校内放送

⑤ＡＥＤ

⑥健康調査票

現場へ

《現場》

リーダー：役割分担を指示（アクションカードを配る。）

『あなたは○○をしてください。（指示）』

⑦心肺蘇生　⑧手当て　⑨１１９番通報　⑩保護者への連絡

⑪記録　⑫エピペン　⑬救急車の誘導　⑭他の生徒の対応

救急隊へ引き継ぐ

・アクションカードを回収する。

・事後対応や措置をする。

・症状や状況・処置について時系列で記録し，管理職に報告する。

・大多喜町教育委員会に報告する。

図５：救急時の対応図（改訂版）

（2）アクションカードの工夫（資料９）

ア　発見・連絡カード

教職員が使用している名札ホルダーに，切り離しができるカードを入れた。なお，教室等のわかりやすい場所に「発見」「連絡」カードを設置した学校もある。

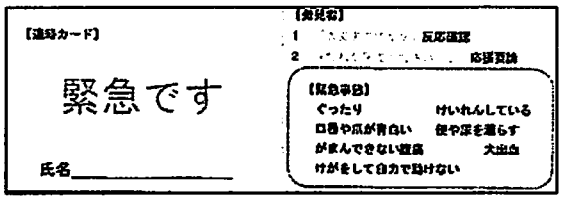


図６：発見・連絡カード（表）

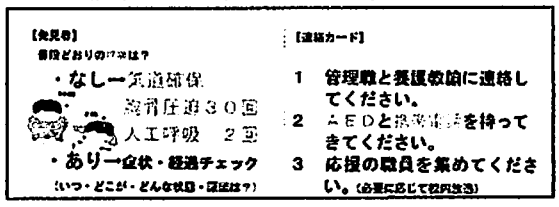
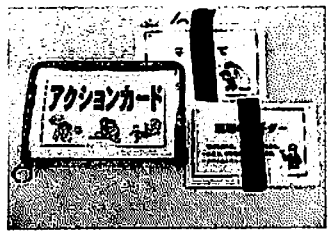


図７：発見・連絡カード（裏）

イ　カードの仕分け

職員室で必要なカードと現場で必要なカードを仕分けた。また，カードを慌てずに素早く分けるために，マジックテープを使った。これらの工夫は教職員間の会話の中からヒントを得た。



（3）アクションカードを用いた中学校区心肺蘇生法講習会　　２０１７年６月（資料 10）

ア　目的　ＡＥＤを含む心肺蘇生法の講習に加え，アクションカードを用いたシミュレーションも行い，行動を確認する。

イ　内容　プールでおぼれている児童や胸部強打・頭頸部外傷の生徒の対応（引き上げ，運搬，心肺蘇生，救急車要請）

ウ　評価

○継続した訓練により，カードが配られる前に行動できる実践力が培われた。

○実際にカードを使って訓練したことで，学校の実態に合わせた救急時の対応が明確になった。⇒救急時の対応図の改訂につながった。（図５：救急時の対応図）

表１：胸部強打・頭頸部外傷　アクションカードの役割別感想

カード番号	カードの良い点・改善点（○良かった点●反省点　⇒改善点）
①発見者	●ｶｰﾄﾞを出して切るのを慌てた。⇒ﾎﾙﾀﾞｰの工夫
②連絡者	○カードを渡す使命感があった。
③リーダー	●多人数集まった時に，誰にどの指示を出すか迷った。⇒カードの優先順位を明確にする。
④放送	○慌てることなく，スムーズにできた。
⑤ＡＥＤ	○自分の役割がわかりやすかった。
⑥手当て	●分担された人数が多くて困った。⇒集まった人数で分担が変わることを共通理解する必要がある。
⑦通報と誘導	○何をすればよいのか明確で安心できた。 ●カードが配られるまで指示待ちのタイムラグができてしまうのではないか。

⑧保護者連絡	○連絡する内容がわかりやすかった。
⑨心肺蘇生	○毎年訓練していても慌てたので，とっさの時のカードの指示は安心できる。
⑩記録	○記録用紙にペンもあったので良かった。必要事項が明記されていたので，わかりやすかった。
⑪健康調査票	●誰が倒れたか分かった時点で職員室から持ってきた方が効率的。⇒対応図の改善（図５） ●行動が終了した時点でアクションカードをリーダーが回収した方が確認しやすい。⇒改善（図５）
⑬他の生徒の対応	○カードを渡される前に行動できるよう，継続的な訓練が必要と感じた。

○アクションカードを用いた研修により，発見者となった場合やリーダーとなった場合でも，「対応できる」という意識が向上した。（資料 11・12）

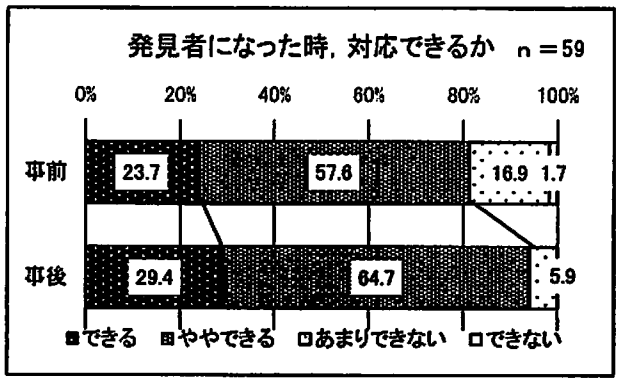


図８：発見者になった時，対応できるか

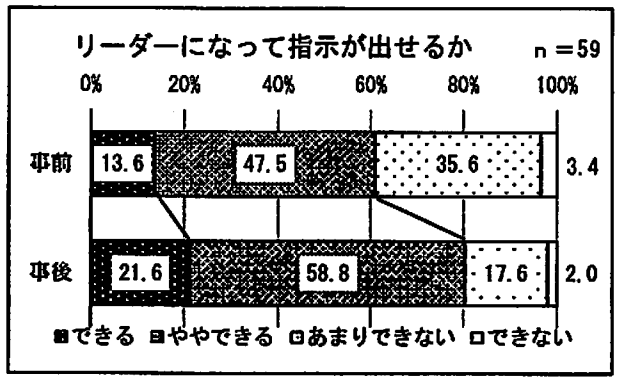


図９：リーダーになって指示がだせるか

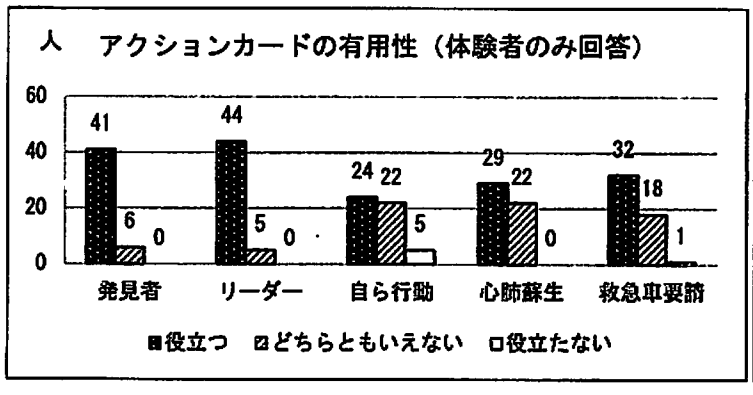


図１０：アクションカードの有用性

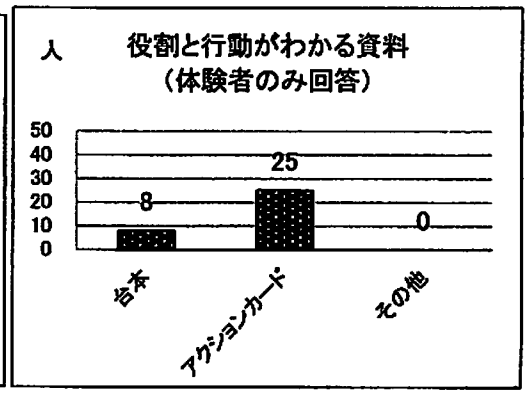


図１１：役割と行動がわかる資料

●アクションカードをとりいれた研修から見えた課題

・アクションカードは役割分担が明確で，行動が明記され，訓練のための資料としては適していると思われる。

・カードに頼りすぎていると，指示待ちのタイムラグが生じる。アクションカードがなくても行動できる実践力を身につけるために繰り返しの研修が必要である。

・アクションカードの利点と台本の利点があり，くみあわせた訓練が必要である。（図：11）

4　要望をとりいれた研修（工夫４）　２０１６年８月

２０１５年の研修会終了後，教職員にアンケート調査をおこなったところ，食物アレルギー以外にも保健に関する研修の要望があった。

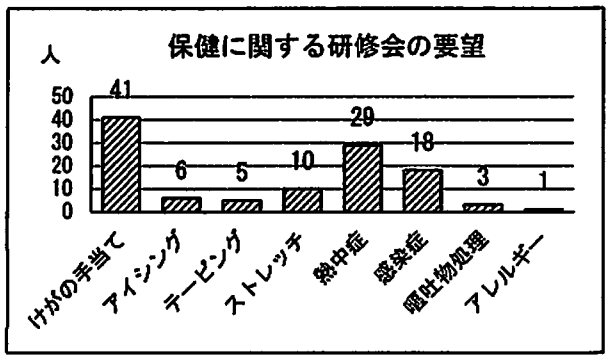


図１２：研修会の希望

また，大多喜町保健部会は６年前から町に製氷機設置を要望していた。その製氷機が２０１６年に全小中学校に配置された。教職員がアイシングに対する正しい知識と対応能力をもつことにより，更に，製氷機が有効活用されると考えた。

そこで，町教育研究会に働きかけ，町内教職員一斉の研修会を企画し実施した。

ア　目的　氷を用いてアイスパックを作り，捻挫や脱臼のＲＩＣＥ処置を学ぶ。

イ　内容　・大学教授（スポーツトレーナー学科）による講義

・捻挫や脱臼のアイシング，ＲＩＣＥ処置の実習

ウ　評価　○研修前は捻挫の処置やＲＩＣＥ処置に自信がない教職員が多かったが，研修後はほとんどの教職員が「できる」「ややできる」と答え，自信を持てるようになった。

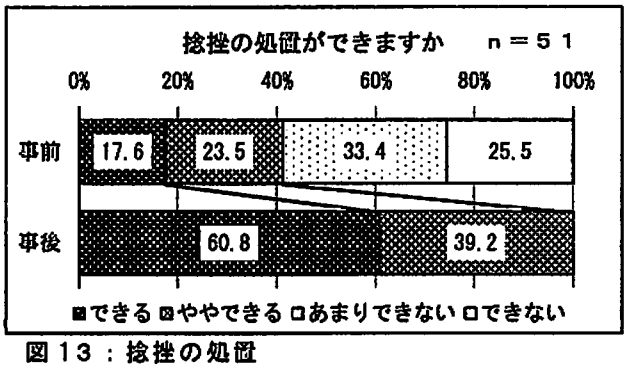


図１３：捻挫の処置

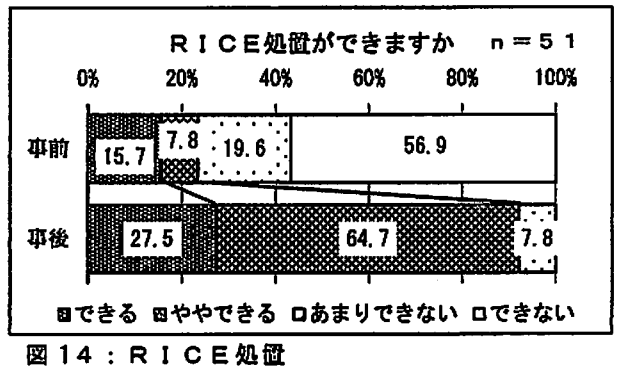


図１４：ＲＩＣＥ処置

○養護教諭不在時も教職員が積極的にアイスパックを作り，対応に当たるようになった。

○けがをした児童生徒に，氷をもらうように指示する教職員が増えた。

○部活動の顧問になっている教職員から，次の講習会の要望があった。

○要望をとりいれた研修により，教職員の救急対応に対する意識が高まった。

●研修の機会と時間の確保が難しい。⇒関係機関への働きかけ。

●要望をとりいれた研修から見えた課題

・教職員全体の研修の機会や時間を確保することが難しい。

5　実施年度による研修前後の意識調査の比較

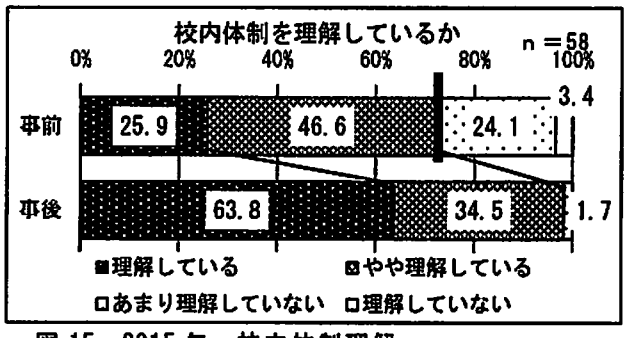


図 15：2015 年　校内体制理解

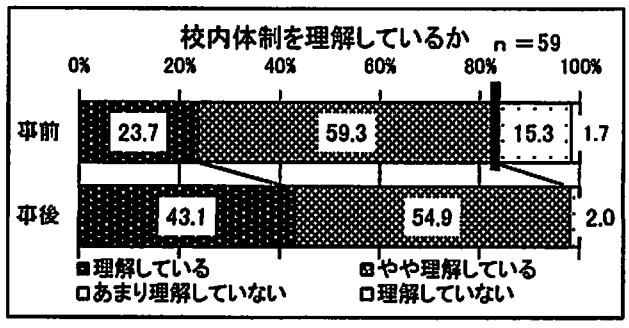


図 16：2017 年　校内体制理解

２０１５年も２０１７年も研修前の校内体制を「理解している」割合はほぼ同じであった。これは，毎年教職員の異動により構成が変わることが理由として考えられる。しかし「理解している」と「やや理解している」までを合わせた割合は２０１７年の方が１割多くなっている。これは，継続したとりくみにより，わずかながらではあるが成果の現れと思われる。

事後については，２０１５年の方が「理解している」割合が増えている。これは，座学で校内研修を行ったことで，じっくり体制について説明できたためと考える。２０１７年は中学校区の心肺蘇生法講習会で実施したため，各学校の体制を理解するまで至らなかった。

Ⅶ　まとめ

1　研修の成果

・食物アレルギー対応マニュアルに研修を位置づけたことにより，職員研修を定着させることができた。また，工夫を加えた研修を繰り返したことにより，教職員の救急対応に対する意識が高まった。

・場面を設定したシミュレーションを，役割分担を代えて継続的に行ったことで，救急車を要請する事態が発生した時も，教職員が体験を活かして役割を理解し，迅速に行動することができた。

2　今後の課題

・アクションカードを再検討するとともに，校内研修の継続したとりくみと研修内容のマンネリ化を避ける手立てが必要である。

最後に，研究を進めるにあたりご多用の中ご指導ご協力いただきました，夷隅郡市広域市町圏事務組合消防本部大多喜分署　前：林章宏救急救命士，現：長谷川勝利救急救命士をはじめとする消防隊員のみなさまに感謝いたします。また，先行研究として，昨年度の印旛支部の提案を参考にさせていただきました。

今後も養護教諭としてコーディネーター的役割を担い，研修の企画・実行・改善をとおして，教職員の救急対応能力を高め，児童生徒が安全・安心に過ごせる環境を整えるよう，心がけていきたいと思います。

【参考文献】　・学校給食における食物アレルギー対応指針　　文部科学省
・学校給食における食物アレルギー対応の手引き　　千葉県教育委員会

資　　料

資料１	食物アレルギー全体研修後の感想	ｐ１
資料２	対応時系列	ｐ２
資料３	記録用紙の改善	ｐ３

【視聴覚教材をとりいれた研修】

資料４	次第・ＤＶＤを見て	ｐ４
資料５	シミュレーションの台本	ｐ５～ｐ６
資料６	事前・事後アンケート	ｐ７
資料７	アンケート結果	ｐ８

【アクションカードをとりいれた研修】

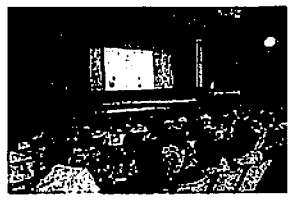
資料８	対応図の改善	ｐ９
資料９	アクションカード	ｐ１０～ｐ１３
資料１０	次第・アクションカード実施後のアンケート	ｐ１４
資料１１	事前・事後アンケート	ｐ１５
資料１２	アンケート結果	ｐ１６

資料１３	保健部会だより	ｐ１７～ｐ１９

資料１

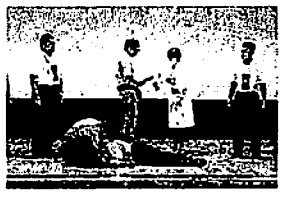
大多喜町教育研修会教育講演会　感想　　２０１４．８．２１（木）

〈永山洋子先生の講演について〉



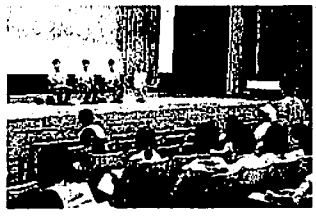
・専門的な立場からのお話が聞けたので大変参考になりました。
・アナフィラキシーに対する知識が皆無であったため，大変ためになりました。
・食物アレルギーは食べて治す時代というお話をうかがい，食べる事の大切さを改めて実感しました。
・アレルギーのものを食べないように努力してきた考え方が，今は食べて治す時代に変わってきたことを知りました。
・自分のクラスにもエピペンをもっている生徒がいるので，給食時や緊急時にしっかり対応したいです。
・知識を持つことで，過剰に心配したり，焦ったりということが軽減されると思いました。

〈エピペン実習について〉
・初めてエピペンを持ちました。勉強になりました。
・見たのも使ったのも初めてだったので勉強になりました。
・思っていたよりに力強く押さなければならないので，やらせていただいて良かったです。
・１回目より２回目，２回目より３回目。エピペン実習を重ねることにより理解が深まりました。（不安が少なくなってきました。）
・とても勇気のいることなので，練習する機会を「自分には関係ない」と思わず持つことが大切だと思いました。



〈シミュレーションについて〉
・問題点や注意点などがよくわかりました。
・実際に見ることで対応について理解できました。エピペンを打つタイミングは難しいです。
・事例を劇にして，途中途中に永山先生や消防の人との質問ややりとりがあり，とてもわかりやすかったです。
・場面毎に区切って永山先生との応答もあり，わかりやすくとても良かったと思います。講演会の中で参加者が集中できる部分が後半にもあったことも工夫されていたと思います。
・劇で場面がきちんとわかり，対処法のポイントや留意点がよくわかりました。
・学校によって対応が若干異なる場合もあるので，各学校のシミュレーションが必要だと感じました。
・劇だけをみていると対応する順序がわかりにくい。

〈その他〉



・子どもの命を守り抜くことは教育活動の根本とも言えると思います。とても大切なことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。
・自分が学生だったときとは，状況が様々に異なっているということを，しっかり認識しなければならないと感じました。

資料2

(例) 緊急時の役割分担

	児童	発見職員 観察	管理職 管理	養護教諭 準備・観察	応援職員 準備	連絡	記録	その他
0分	事故発生							
1分		発見 **応援職員の要請** 保健室・職員室に連絡						
2分		児童から離れずに観察を続ける。 投薬（内服薬・エピペン） 介助 心肺蘇生 ＡＥＤの使用	・職員室にいる**職員に指示** ＊準備・記録・連絡 ・現場に向かう	救急用品を持って現場に向かう。				・他の児童への対応 ・救急車の誘導
3分			・それぞれの役割の確認及び指示	児童の観察 応急処置 （けがの手当て、投薬等） 心肺蘇生 ＡＥＤの使用	管理指導票や救急薬品・エピペン、ＡＥＤ等を準備して現場に向かう。 介助 心肺蘇生法 ＡＥＤの使用	家庭連絡 救急車要請 現場の状況によりさらに人を集める。	現場に向かい記録をとる。 ・事故発生 ・状況記録 ・投薬時刻 ・症状の変化の記録	
10分	救急隊への引き渡し			救急隊への状況説明及			救急隊への状況説明	

資料３

【記録用紙の改善】

２０１３年作成
「食物アレルギー対応マニュアル」の記録用紙
　文字が多く，グレードを探して記入することが難しかった。

２０１５年作成
「食物アレルギー対応マニュアル」の記録用紙
　症状の後に確認時刻を記録できるようにした。
　参考文献：東京都健康安全研究センター「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」

２０１６年作成
救急時に，どのような傷病でも対応可能な記録用紙

２０１７年のアクションカード内にも同様の用紙を入れた。

資料４

２０１５年８月１９日（水）
時間：８：３０～９：３０
場所：図書室

校内研修　食物アレルギー対応　～エピペントレーナー・シミュレーション実技講習～

進行：　（研究主任）

1　はじめの言葉（　：保健主事）

2　ＤＶＤ視聴
（１）ミニドラマ：適切に対応できなかった例（５分）
（２）ミニドラマ：適切に対応できなかった例（ふり返り用）」（１１分）

3　学校における食物アレルギーの生徒の説明（　：養護教諭）
（１）学校生活管理指導票
（２）食物アレルギー個人支援プラン
（３）緊急時個別対応カード

4　エピペントレーナーによる実習

5　アナフィラキシーショック発生時の対応
（１）役割分担　シミュレーション（各学年２名）
（２）話し合い（　：研究主任）

6　感想

7　校長先生のお話

8　終わりの言葉（　：保健主事）

ＤＶＤを視聴しながら，適切に対応できなかった場所や改善点について記入をしてください。

適切に対応できなかった場所	改　善　点

資料5

《食物アレルギー・アナフィラキシー発症時の対応　シミュレーション　シナリオ》

ナレーション（　　）８名（○さん・発見者・校長・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ）

食物アレルギーを有する生徒（○）が，給食後の昼休みに体育館で遊んでいました。おやおや，少し様子が変です。かゆがって，咳が出てきています。

［体育館］

（○）なんだか，体がかゆくなってきた。かゆいよ。

（発見者）どうした，○君。かゆいのかい？○君はアレルギーを持っているけど，もしかしたら，給食で○○を食べたの？

（○）少しだけ，おいしそうだったから。ゴホゴホ（咳）のどもかゆくなってきた。

全身のかゆみと喉のかゆみを伴う咳が出てきています。

（発見者）だれか来てください。○君がアレルギーを起こしています。

（Ａ）（Ｂ）近寄る

（発見者）Ａ先生は職員室に行って，校長先生と応援の先生を呼んでください。
Ｂ先生は保健室に行って，養護教諭に連絡をしてください。

（Ａ）職員室に走る
（Ｂ）保健室に走る

○君はかゆがっています。咳もひどくなってきました。顔色が悪くなってきたようです。

（発見者）大丈夫かい。横になろう。少し，足を高くするよ。（ショックの体位）（頭を高くしない）（その場から動かさない）

（○）足を上げる。

［職員室］

（Ａ）体育館で○君がアレルギーを起こしています。来てください。
（大声で応援を呼ぶ）

（校長・Ａ・Ｃ・Ｄ）体育館に走る。

（校長）わかりました。Ｃ先生は緊急時のファイルを，Ｄ先生はＡＥＤを持ってください。

［保健室］

（Ｂ）体育館で○君がアレルギーを起こしています。来てください。

（養護教諭・Ｂ）体育館に走る。

（養護教諭）わかりました。Ｂ先生は教室にエピペンを取りに行ってください。

［体育館］

発見者が○君に声を掛け，励ましています。そこに，応援の職員が到着しました。

（校長）○君，大丈夫かい。

（○）かゆいよ。喉が苦しいよ。（ゴホゴホ・ヒュー）

（校長）呼吸が苦しくなってきているようだ。緊急を要するので，エピペンを打ちましょう。Ｂ先生はエピペンを打ってください。

（Ｂ）わかりました。エピペンを打ちます。（キャップをはずし打つ）１・２・３・４・５（太股をもむ）

（校長）Ａ先生は１１９番通報と救急車の誘導をしてください。

（Ａ）はい。わかりました。

Ａ先生が１１９番通報をします。救急隊員とのやりとり。（今回は消防の声なし）

（消防：声：　　）はい消防です。火事ですか？救急ですか？

（Ａ）救急お願いします。

（消防：声：　　）場所はどこですか？

（Ａ）大多喜中学校です。

（消防：声：　　）どうされました？

（Ａ）１時１０分ころから，○年生の男の子が給食後にアナフィラキシーを起こしエピペンを打ちました。

（消防：声：　　）意識はどうですか？

（Ａ）意識はありますが，かなりかゆがっていて，呼吸が苦しそうです。

（消防：声：　　）かかりつけの病院はありますか？

（Ａ）はい。　　医療センターです。

（消防：声：　　）はい。わかりました。あなたのお名前と電話番号をお願いします。

（Ａ）Ａです。０４７０－　　－　　です。

（消防：声：　　）はい。わかりました。救急車の誘導もお願いします。

校長先生は，同時に保護者への連絡も指示します。（今回は保護者の声なし）

（校長）Ｃ先生は，保護者に連絡をしてください。

（Ｃ）はい。わかりました。

Ｃ先生と保護者のやりとり。

（Ｃ）○君のお母様ですか。

（○母：声：　　）はい。

（Ｃ）実は○君が，給食後の昼休みに体育館で遊んでいたときにアナフィラキシーを起こして，すぐにエピペンを打ち，救急車を呼び，対応しています。すぐ，学校にきていただけますか？

（○母：声：　　）はい。わかりました。すぐに向かいます。

（Ｃ）お願いします。

○君の意識がなくなってきました。校長先生はD先生にＡＥＤの準備を指示します。

（校長）D先生は，心肺蘇生ができますか。

（D）はい。できます。

（校長）それでは，D先生と（発見者）先生で心肺蘇生，ＡＥＤを準備してください。

（D：発見者）はい。準備できました。始めます。

（D：発見者）心肺蘇生を始める。

同時に校長先生は養護教諭に記録を指示します。

（校長）養護教諭は時間と症状を正確に記録してください。

（養護教諭）はい。記録します。

（養護教諭）「緊急個別対応カード」に記録する。

校長先生はC先生に他の生徒の対応を指示します。

（校長）C先生は他の生徒を教室に戻し，動揺しないようサポートしてください。

（C）はい。わかりました。

救急車が誘導され，体育館に到着しました。
養護教諭は「学校生活管理指導表」「緊急個別対応カード」で今までの経過を話し，救急隊員に引き継ぎます。

資料6

校内研修（食物アレルギー）事前アンケート

該当する番号に○をつけてください。

○年齢　1，20代　2，30代　3，40代　4，50歳以上
○性別　1，男　2，女
○今まで、食物アレルギーの研修を何回受けましたか？（校内研修を含む）
1，0回　2，1回　3，2回　4，3回　5，4回　6，5回以上

質問1　食物アレルギーの症状と思われるものはどれですか。(複数回答可)
1，じんましん　2，目のかゆみ　3，くしゃみ・鼻水
4，口や喉の違和感　5，腹痛　6，気持ちが悪い・嘔吐　7，下痢
8，咳　9，アナフィラキシー

質問2　食物アレルギーの症状について，緊急性が高いかどうか判断できますか？
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

質問3　緊急時の校内体制を理解していますか？
1，理解している　2，やや理解している
3，あまり理解していない　4，理解していない

質問4　緊急時，自ら対応することができますか？
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

質問5　エピペンを打つ自信がありますか？
1，自信がある　2，まあまあ自信がある　3，あまり自信がない　4，自信がない

質問6　心肺蘇生ができますか？（AEDも含む）
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

質問7　救急車を要請（消防署と対応）することができますか？　（管理職不在時も含む）
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

研修（食物アレルギー）事後アンケート

質問1　食物アレルギーの症状について，緊急性が高いかどうか判断できますか？
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

質問2　緊急時の校内体制を理解していますか？
1，理解している　2，やや理解している
3，あまり理解していない　4，理解していない

質問3　緊急時，自ら対応することができますか？
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

質問4　エピペンを打つ自信がありますか？
1，自信がある　2，まあまあ自信がある　3，あまり自信がない　4，自信がない

質問5　心肺蘇生ができますか？（AEDも含む）
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

質問6　救急車を要請（消防署と対応）することができますか？　（管理職不在時も含む）
1，できる　2，ややできる　3，あまりできない　4，できない

質問7　今日の研修会はどうでしたか？
1，とてもよかった　2，よかった　3，あまりよくなかった　4，よくなかった

○研修会の感想

質問8　今日見たDVDは，参考になりましたか？
1，とてもよかった　2，よかった　3，あまりよくなかった　4，よくなかった

○DVDの感想

質問9　シミュレーションは，どうでしたか？
1，とてもよかった　2，よかった　3，あまりよくなかった　4，よくなかった

○シミュレーションを・・・　やった　やらない（見ていた）
○シミュレーションの感想

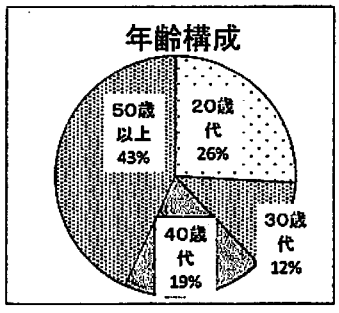
質問10　今後，保健に関する研修会を持つとしたら，どのような内容を希望しますか？3つ書いてください。
例）けがの手当て（アイシング・テーピング含む）　運動前後のストレッチ　熱中症　感染症

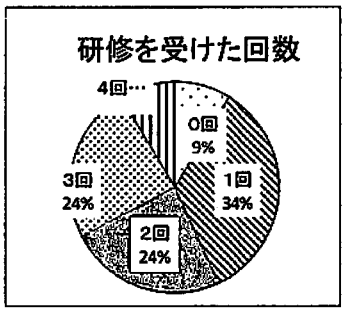
①＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿　③＿＿＿＿＿＿

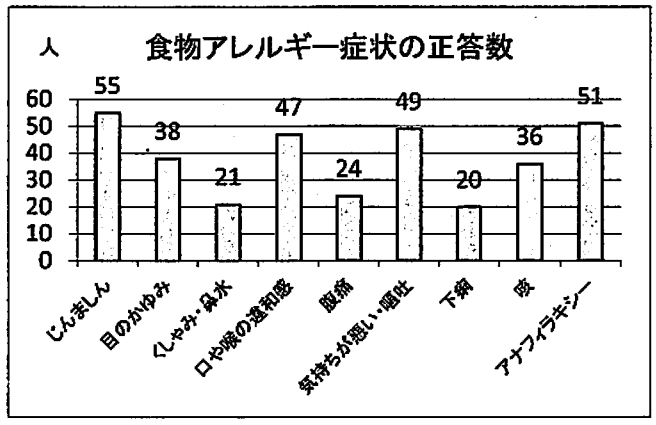
ご協力ありがとうございました。

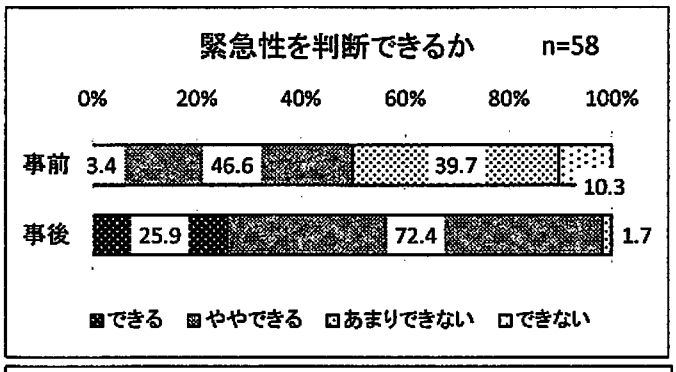
資料7

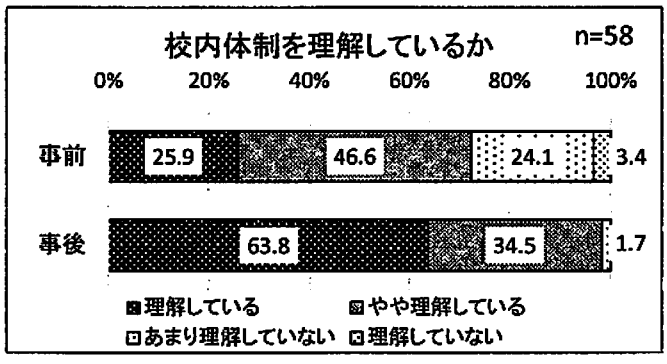
2015年度実施　食物アレルギー研修アンケート結果（一部抜粋）

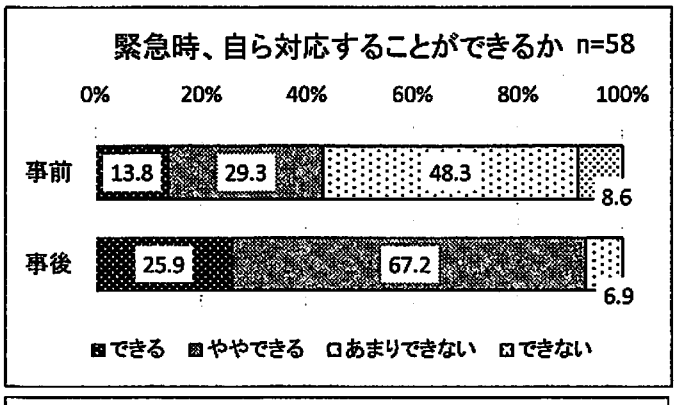


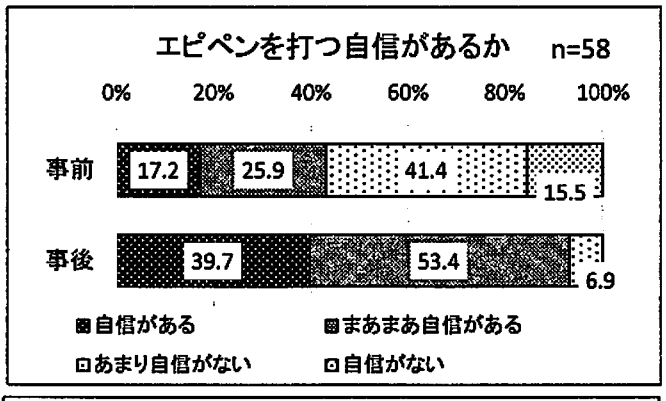


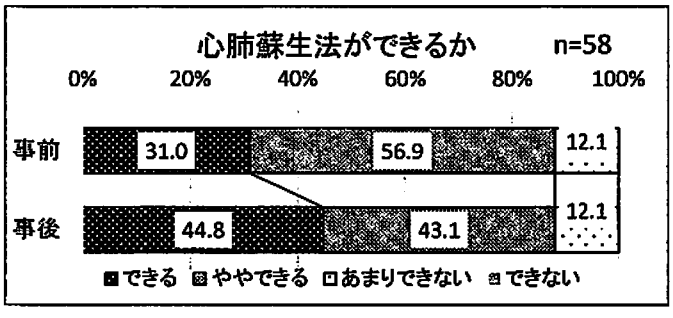


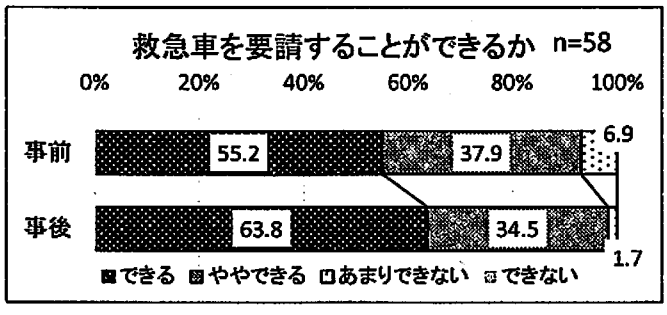


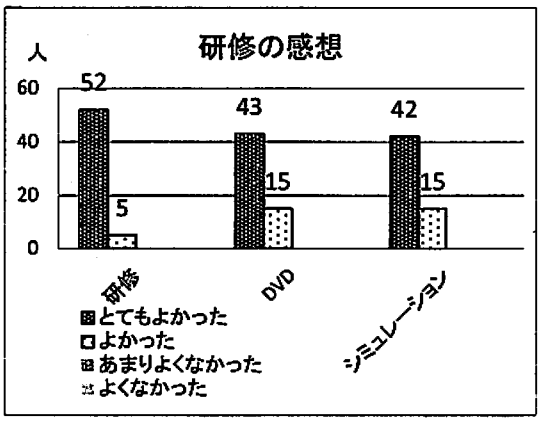


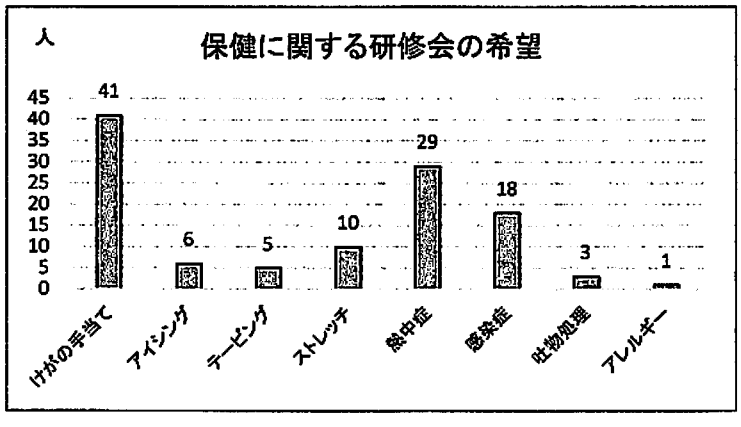












資料８

食物アレルギー　アナフィラキシー発生時の役割分担・事前シミュレーション

（設定）
食物アレルギーをもっている生徒が，給食後の昼休みに体育館で遊んでいるときにアナフィラキシーを起こした。

管理職
- □ 現場に到着次第，リーダーとなる
- □ 役割の確認・指示
- □ エピペン・心肺蘇生の介助

１１９番通報
- □ 状況
- □ エピペン使用の有無を伝える

発見者「観察」
- □ 生徒から離れず観察（全身・呼吸器・消化器・皮膚・顔面の症状）
- □ 助けを呼び，人を集める（誰かいませんか）
- □ ２名に指示する。職員室に行く人（カード・エピペン・内服薬・ＡＥＤ）・管理職と養護教諭に連絡する人
- □ 管理職が到着するまでリーダー代行となる
- □ 薬の服用介助
- □ 心肺蘇生やＡＥＤの使用

職員室（職員）
- □ カードを持ってくる
- □ エピペン・ＡＥＤ・内服薬の準備
- □ エピペンの介助
- □ 心肺蘇生やＡＥＤの使用

連絡（職員）
- □ 管理職を呼ぶ
- □ 養護教諭に連絡をする
- □ 保護者への連絡
- □ さらに応援職員を呼ぶ
- □ ※緊急時は救急車を要請する（１１９番通報）

応援（職員）
- □ 救急車の誘導
- □ 級立表の確認
- □ 他の生徒への対応
- □ 心肺蘇生等の介助

養護教諭（不在時は記録者）
- □ 養護教諭は症状の判断（内服薬・エピペン・ＡＥＤの有無等）
- □ 緊急時個別対応カードに記録（内服薬・エピペン使用時刻等）

２０１４年
全体の流れがわかりにくい

《食物アレルギー・アナフィラキシー発症時の対応・役割分担　シミュレーション》

設定：食物アレルギーを有する生徒（○さん）が，給食後の昼休みに体育館で遊んでいたときに，アナフィラキシーを起こした。　８名（○さん・発見者・校長・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・養護教諭）

《体育館》：第一発見者が異変に気づく
発見者：『だれか，来てください。』（２名近寄る）
『あなた（Ａ）は，職員室に行って，校長先生と応援の先生を呼んでください。』
『あなた（Ｂ）は，保健室に行って，養護教諭に連絡してください。』

Ａ　職員室へ　／　Ｂ　保健室へ

《職員室》
- ・校長又は教頭に連絡
- ・教職員に連絡
- ・緊急時対応ファイルを持つ
- ・ＡＥＤを持つ

Ａ：『体育館で○さんがアレルギーを起こしています。来てください。』大声で応援を要請する。
校長：『あなた（Ｃ）は，緊急時のファイルを，あなた（Ｄ）はＡＥＤを持ってください。』

《保健室》
- ・応急カバンを持つ
- ・エピペンを取りに行く

Ｂ：『体育館で○さんがアレルギーを起こしています。来てください。』
養護教諭：『あなた（Ｂ）は，教室にエピペンを取りに行ってください。』

校長・Ａ・Ｃ・Ｄ　体育館へ　／　Ｂ・養護教諭　体育館へ

《体育館》
校長又は教頭：役割分担を指示
『あなたは○○をしてください。（指示）』役割を決め，即時に行うこと。

エピペン注射　／　１１９番通報と救急車の誘導　／　保護者への連絡　／　ＡＥＤの準備と心肺マッサージ　／　記録

- ・足を少し高くする（ショックの体位）
- ・頭を高くしない
- ・その場から動かさない

他の生徒への対応

救急隊へ引き継ぐ

- ・事後対応や情報をする。
- ・症状や状況・処置について時系列で記録し，管理職に報告する。
- ・大多喜町教育委員会に報告する。

２０１５年
消防署より「反応なし」の場合は直ちに１１９番通報する指導される。

《緊急時の対応》

①発見　◎第一発見者が異変に気づく
反応の確認『大丈夫ですか』（肩をたたく）
『だれか，来てください。』

誰か来てください。
あなたは１１９番通報をしてください。

②連絡
◆反応なし
『あなたは，職員室に行って，１１９番通報と応援の先生を呼んでください。』
◆反応あり
『あなたは，職員室に行って，応援の先生を呼んでください。』

職員室へ

③リーダー
《職員室》
・教職員の招集（校内放送）　・ＡＥＤを持つ　・携帯電話を持つ
『（どこで）で○さんが（どうした）。来てください。』
◆反応なし
リーダー『あなたは，１１９番通報をしてください。』
『あなたは，ＡＥＤを持ってきてください。』
◆反応あり
リーダー『あなたは，携帯電話を持ってください。』
『あなたは，ＡＥＤを持ってきてください。』

④校内放送
『連絡。職員は○○に集まってください。生徒はその場で静かに待機してください。』

現場へ

《現場》
リーダー：役割分担を指示（アクションカードを配る。）
『あなたは○○をしてください。（指示）』

⑤手当て　／　⑥１１９番通報と救急車の誘導　／　⑦保護者への連絡　／　⑧ＡＥＤの準備と心肺蘇生
⑨記録　／　⑩健康調査票　／　⑪エピペン　／　⑫他の生徒の対応

救急隊へ引き継ぐ

- ・事後対応や情報をする。
- ・症状や状況・処置について時系列で記録し，管理職に報告する。
- ・大多喜町教育委員会に報告する。
- ・アクションカードを回収する。

２０１６年
消防署より緊急時は多くの人を招集する事を指導され校内放送を入れる。

資料９

①

緊急事態　第１発見者

１「○○さん，大丈夫ですか？」　**反応の確認をする**

２「だれか，来てください！」　**応援要請をする**

＊連絡カードを渡す

緊急事態とは

- □ぐったり
- □けいれんしている
- □息がしにくい
- □口唇や爪が真白い
- □尿や便を漏らす
- □がまんできない腹痛
- □大出血
- □けがをして自力で動けない

②

連絡カード

近くの先生をよんできて！

１　最初にあった先生に　このカード　を見せる。

教室名 [　　] に来てください。

２　職員室の先生に　このカード　を渡す。

応援の職員が来るまで

反応なしの場合　心肺蘇生の実施

ふだん通りの呼吸があるか？

- ある　・気道確保
- ない　・気道確保
  - ・胸骨圧迫　３０回
  - ・人工呼吸　２回　　＊くり返す

反応ありの場合

１　子どもから離れず，症状や経過をチェックする

２　問診（いつから，どこが，どんな状態，原因は何か）

３　エピペンや内服薬の確認

緊急です

★反応がない場合は，１１９番通報を追加する。

１　管理職，養護教諭に連絡してください。

２　AED と携帯電話を持ってきてください。

３　応援の職員を集めてください。

必要に応じて　校内放送で職員を招集してください。

※　現場でアクションカードを配付する。

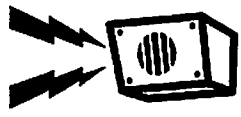
③

リーダー

- 校内放送を指示。
- ＡＥＤを指示。
- 健康調査票・携帯電話（複数）を指示。
- アクションカードを持つ。

④

校　内　放　送



リーダー

１　現場に到着後，状況を把握する。

２　職員に「アクションカード」を配り，担当を決める。

３　現場周囲が安全か確認する。

４　応急手当ての介助

５　それぞれのアクションが遂行されたことの確認

６　アクションカードの回収

７　管理職に状況を報告する。　　※　関係機関への事故報告

校　内　放　送

連絡します。

職員は，＿＿＿＿＿＿＿＿に集まってください。

生徒は，その場で静かに待っていていただいてください。

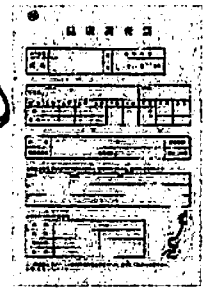
⑤

ＡＥＤ

保管場所（職員玄関）

⑥

健康調査票と携帯電話



職員室　名簿ロッカー内
オレンジのカード

ＡＥＤ

１　ＡＥＤの準備

おちついて　まず電源を入れて

２　心肺蘇生の実施

- 気道確保
- 胸骨圧迫　３０回
- 人工呼吸　２回

＊くり返す

健康調査票と携帯電話

○健康調査票を持ってくる。

保管場所（　職員室　名簿ロッカー　）

※119 番通報の時に，既往歴等を伝える。

○食物アレルギー　緊急時対応個別カードを持ってくる。

保管場所（　職員室　名簿ロッカー　）

⑦

心肺蘇生

呼びかけに反応しない
普段どおりの呼吸なし

⇓

ただちに心肺蘇生を

⑧

手　当　て

心肺蘇生の実施

- 気道確保
- 胸骨圧迫　３０回
- 人工呼吸　２回

＊くり返す

手　当　て

1　救急カバンを持ち，現場へ向かう。（保管場所：保健室前　担架内）

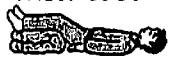
2　状況の確認　（いつから，どこが，どんな状態，原因は何か）

3　応急手当を行う。

指示　・心肺蘇生やＡＥＤ操作の指示
　　・不足している救急用品や人員，児童の持参薬を持ってくる。

4　体位の確認

ぐったり，もうろう



吐き気・嘔吐

呼吸が苦しい

5　救急隊への状況報告

⑨

状況のわかる人，対応できる人が通報する

１１９番通報

通報　傷病者の見える位置で，慌てずゆっくり正確に！

1　救急です。

住所　大多賀町船子１９７番地　大多賀町中学校　です。

場所　○○○にいます。（傷病者がいる場所）

状況　○年生，性別，発症時刻，原因，
現在の症状（意識，呼吸の有無を含む。）

既往歴　○○○があります。（通院中・エピペン等情報を伝える。）

かかりつけ病院　かかりつけは，○○病院です。

2　通報している人の氏名と連絡先(電話番号)を伝える。
＊伝えた電話番号は常につながるようにしておく。夜間連絡用は別の電話を使用する。

3　１１９番通信員に手当ての指導を受ける。

4　救急車の誘導に出ることを伝える。

⑩

保護者への連絡

保護者へ連絡　慌てずゆっくり正確に！

1　現在の状況を報告
・発症時間　・経過　・現在の様子　・誤食の有無　等

2　今後の対応についての説明・確認
・救急車要請，ドクターヘリ使用について　・搬送先の希望
・投薬・エピペン接種の承諾　・主治医，学校医への連絡

3　保護者に持ってきて欲しい物を伝える。（保険証，現在服用している薬等）

4　搬送先の病院の確認（救急車で向かっている病院の確認）

5　保護者が来校可能か，搬送先へ来ることが可能か　の確認

⑪

記録　救急隊が確認する内容

1　傷病の発生時刻（　　時　　分）

2　状況（どこで，何をしている時，どこが，どのように等）

3　心肺蘇生の開始時刻（　　時　　分）

4　ＡＥＤでのショック回数（　　回）

5　手当の内容，投薬・エピペン使用時刻（　　時　　分）

6　傷病者の情報　＊健康調査票参考

7　保護者連絡の有無　　裏面に記録する。

年　組　氏名	事故発生時刻　：

・体温＿＿＿＿度　・脈拍（　　回／分）　・呼吸状態（荒い・ふつう・弱い）

時刻	症状	対応
：	意識（反応の有無） 呼吸（普段通りの呼吸があるか） 痛みの様子　症状の変化　本人の訴え	（例）保護者連絡　，救急車要請（到着・出発） 応急手当（処置・誘導等），医療機関受診 心肺蘇生開始時刻，ＡＥＤ開始時刻・ショック回数
発見時刻 ：		
：		
：		
：		
：		
：		
：		
：		
：		

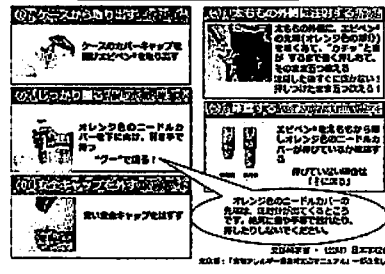
⑫

エピペン　または　投薬

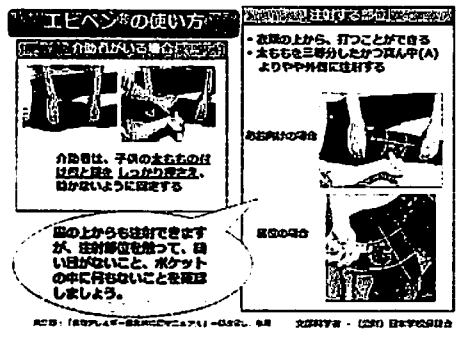
エピペン，薬の準備

○保管場所1
カバン内

○保管場所2
職員室内冷蔵庫

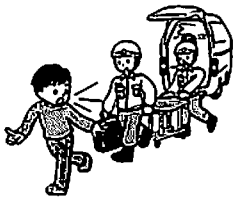


エピペン注射　・　投薬



⑬

救急車の誘導



アクションカード

⑭

他の生徒の対応

- 静かにさせる。
- 現場から移動させる。

【携帯用：連絡・発見者カード】

【連絡カード】

緊急です

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

【発見者】

1 「大丈夫ですか？」反応確認

2 「だれか来てください！」 応援要請

【緊急事態】

ぐったり　　けいれんしている

口唇や爪が青白い　　便や尿を漏らす

がまんできない腹痛　　大出血

けがをして自力で動けない

【発見者】

普段どおりの呼吸は？

・なし→気道確保

胸骨圧迫３０回

人工呼吸　２回

・あり→症状・経過チェック

（いつ・どこが・どんな状態・原因は？）

【連絡カード】

1 管理職と養護教諭に連絡してください。

2 ＡＥＤと携帯電話を持ってきてください。

3 応援の職員を集めてください。（必要に応じて校内放送）

資料 10

２０１７年度　町研　心肺蘇生法講習会

２０１７年６月７日（水）
時間：１５：３０～１６：３０
場所：大多喜中学校　体育館
進行：教頭
記録：

1　はじめの言葉（保健主事）
2　夷隅広域消防　大多喜分署による講習（ＡＥＤを含む）
3　緊急対応能力を高めるためのシミュレーション（アクションカードを用いた実習）
（1）小学校
　ア　場面設定の説明（養護教諭）

> 【Ｂ＆Ｇにてプール指導中】水泳指導中，準備運動，シャワーの後，プールの横を使って水中走り１往復，後ろ向き走り１往復，イルカ飛び１往復，クロール１往復を泳いだ。その後，プールの縦を使って５０ｍをクロールで泳ぎ出した。４５ｍ付近に来たとき，本児の泳ぎの動作が止まり，その状態で浮いた。　（日スポ事例集より一部抜粋）

　イ　役割分担
　　・児童　（　レサシアン　）　①発見者（　　）
　　③リーダー（　　）
　　⑤手当て　（　Ｂ担当，(Ａ担当)　）　⑥１１９番通報と救急車の誘導（　Ａ担当　）
　　⑧ＡＥＤの準備と心肺蘇生（　Ｂ担当，(Ａ担当)　）
　　⑨記録　（　Ｃ担当　）　⑫他の児童の対応（　Ｄ担当　）
　　⑬学校への連絡（　Ａ担当　）
　ウ　シミュレーション実習
　エ　講評（夷隅広域消防　大多喜分署）

（2）中学校
　ア　場面設定の説明（養護教諭）

> ３年男子。昼休み，体育館でドッヂボールをしていた。至近距離から，胸部にボールが当たり，後ろに転倒した際に後頭部を床に強打した。
> 反応はあるが，頭の痛みが強く，自力で歩けない。
> 校長と養護教諭は出張で不在。職員はさまざまな場所で指導中。

　イ　役割分担（緊急時の対応→丸数字は図参照）
　　体育館
　　・生徒　（　→　レサシアン　）
　　①発見　（　　）　②連絡：生徒（　　）
　　職員室
　　③リーダー（　　）　④放送（　　）
　　各場所
　　⑤手当て　（　　）　⑥１１９番通報と救急車の誘導（　　）
　　⑦保護者への連絡（　　）　⑧ＡＥＤの準備と心肺蘇生（　　）
　　⑨記録　（　　）　⑩健康調査票（　　）
　　⑫他の生徒の対応（　　）
　ウ　シミュレーション実習
　エ　講評（夷隅広域消防　大多喜分署）
4　お礼の言葉（校長）
5　終わりの言葉（保健主事）

「アクションカードを用いたシミュレーション訓練」実施後のアンケート

２０１７年６月

◆ **すべての先生にお尋ねします。**
アクションカードについての感想や意見をご記入ください。

◆ **役割演技を行った先生のみお答えください。**
今回の研修の役割を○で囲んでください。

発見者　連絡者　リーダー　放送　手当て　１１９番通報　保護者への連絡
ＡＥＤ　記録　健康調査票　他の生徒への対応

1　今回のシミュレーションで，自分のやるべき役割や行動がわかりましたか？
　（　　）はい
　（　　）いいえ（理由：　　）

　＊　その時，アクションカードは役に立ちましたか？
　（　　）はい
　（　　）いいえ（理由：　　）

2　シミュレーションでは，職員同士が連携して救急対応をすることができていましたか？
　（　　）はい
　（　　）いいえ（理由：　　）

　＊　その時，アクションカードは役に立ちましたか？
　（　　）はい
　（　　）いいえ（理由：　　）

ありがとうございました。

資料11

救急時の対応に関する意識調査　事前アンケート　　２０１７年６月

・今までに，心肺蘇生法講習を何回受けましたか？（校内研修も含む）
　１　０回　　２　１～９回　　３　１０～１９回　　４　２０回以上

・今までに，救急時を想定したシミュレーション訓練を何回体験しましたか？（食物アレルギー対応も含む）※実際に役割演技を行わずに見学した場合でもよい。
　１　０回　　２　１～２回　　３　３～５回　　４　６回以上

学校で，救急車を要請する事態が発生したと想定し，その対応について質問します。

質問１　緊急事態が発生した時の校内体制を理解していますか？
　１　理解している　　２　やや理解している
　３　あまり理解していない　　４　理解していない

質問２　第一発見者になったらあなたは，対応できますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない

質問３　何人かの職員で対応する時，あなたはリーダーになって指示が出せますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない

質問４　何人かの職員で対応する時，あなたは自分のやるべきことが分かり動けますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない

質問５　心肺蘇生（ＡＥＤを含む）ができますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない

質問６　救急車を要請することができますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない

救急時の対応に関する意識調査　事後アンケート　　２０１７年６月

学校で，救急車を要請する事態が発生したと想定し，その対応について質問します。

質問１　緊急事態が発生した時の校内体制を理解していますか？
　１　理解している　　２　やや理解している
　３　あまり理解していない　　４　理解していない

質問２　第一発見者になったらあなたは，対応できますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない
　＊その時，アクションカードが役に立つと思いますか？
　１　思う　　２　どちらともいえない　３　思わない（　　）

質問３　何人かの職員で対応する時，あなたはリーダーになって指示が出せますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない
　＊その時，アクションカードが役に立つと思いますか？
　１　思う　　２　どちらともいえない　３　思わない（　　）

質問４　何人かの職員で対応する時，あなたは自分のやるべきことが分かり動けますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない
　＊その時，アクションカードが役に立つと思いますか？
　１　思う　　２　どちらともいえない　３　思わない（　　）

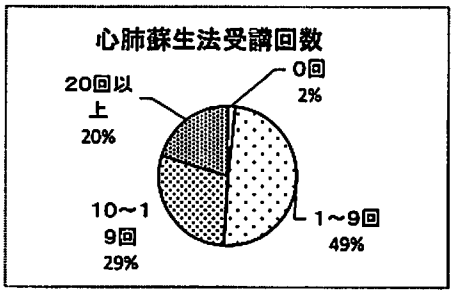
質問５　心肺蘇生（ＡＥＤを含む）ができますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない
　＊その時，アクションカードが役に立つと思いますか？
　１　思う　　２　どちらともいえない　３　思わない（　　）

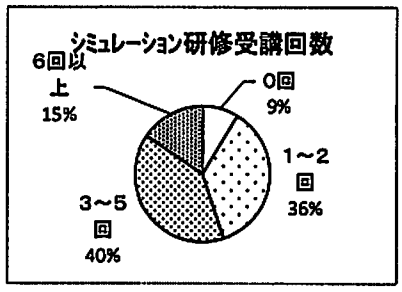
質問６　救急車を要請することができますか？
　１　できる　　２　ややできる　　３　あまりできない　　４　できない
　＊その時，アクションカードが役に立つと思いますか？
　１　思う　　２　どちらともいえない　３　思わない（　　）

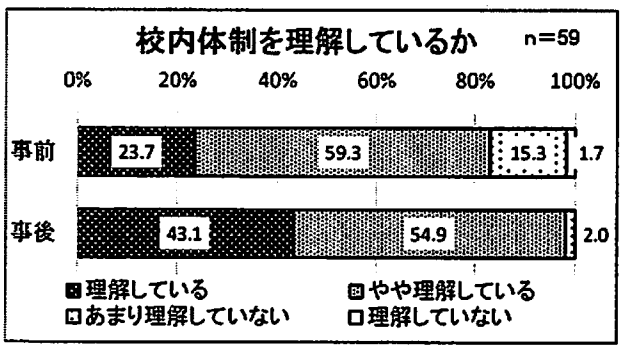
以前，救急時を想定したシミュレーション訓練を行ったことのある方のみ質問します。
◇一番全体の流れがわかりやすい資料は何ですか？
　１　台本（せりふ入り）　　２　アクションカード　　３　その他（　　）
◇一番自分の役割と行動がわかりやすい資料は何ですか？
　１　台本（せりふ入り）　　２　アクションカード　　３　その他（　　）

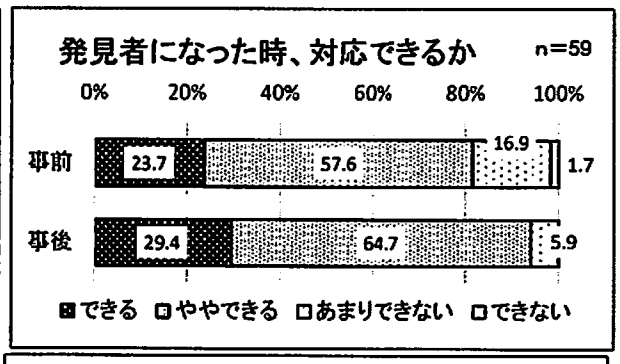
資料 12

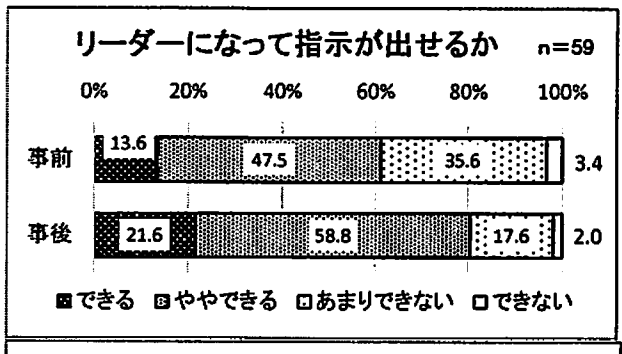
2017年6月実施 心肺蘇生法講習会アンケート結果（一部抜粋）

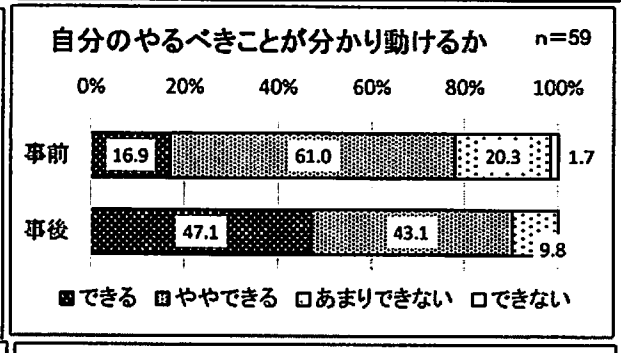


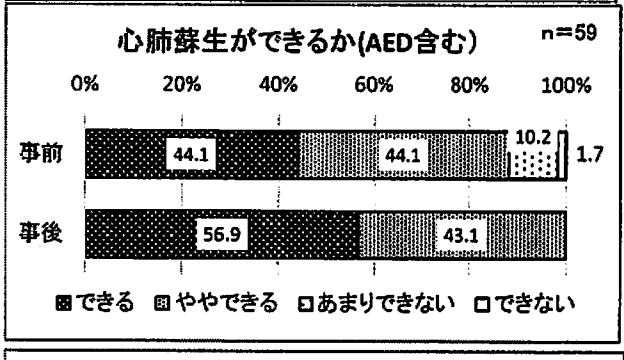


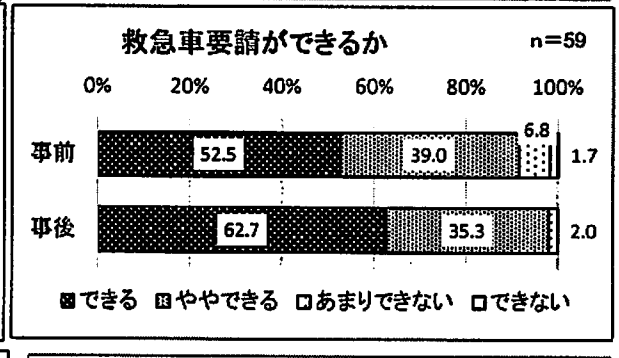


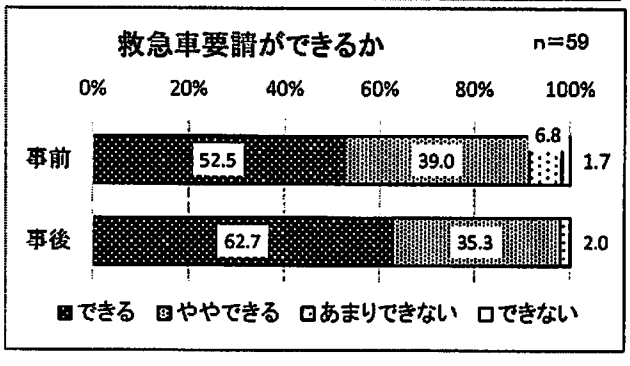


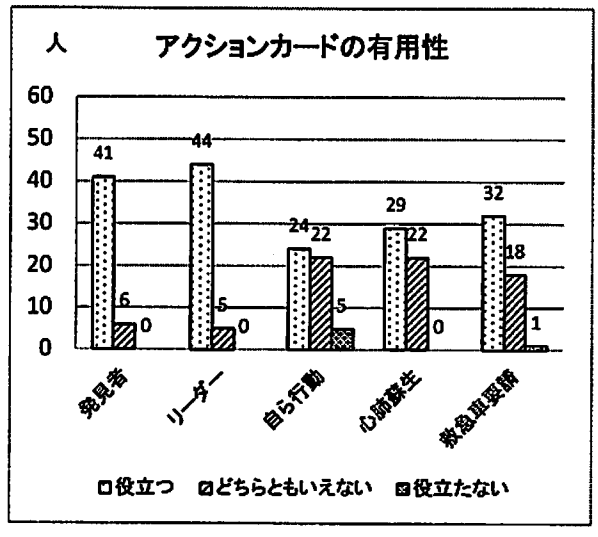










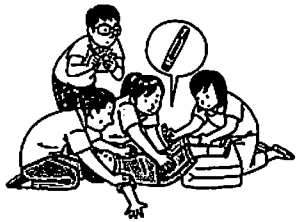


資料 13

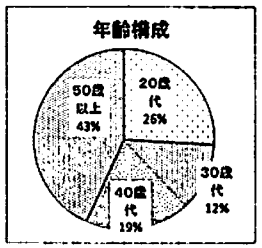
保健部会だより

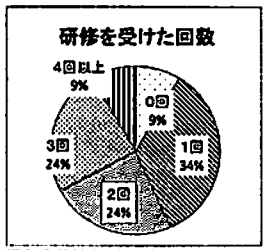
２０１６年３月１日発行
大多喜町教育研究会　保健部会

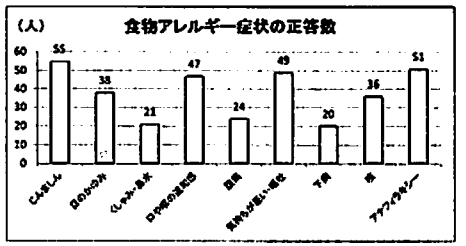
過日は、お忙しい中、校内食物アレルギー研修並びにアンケートにご協力いただきありがとうございました。遅くなりましたが、アンケートの結果をお知らせいたします。



○校内アレルギー研修参加者（町内小中学校）６０名
○アンケート回収数　５８名



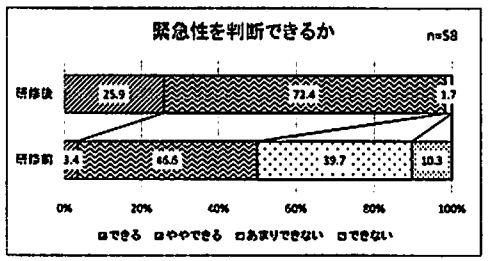




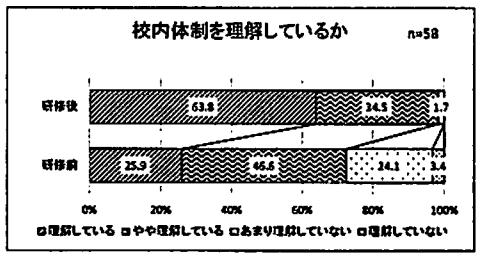
２回以上研修を受けた人が半数以上だった。

「くしゃみ・鼻水」「腹痛」「下痢」は、正答数が少なかった。

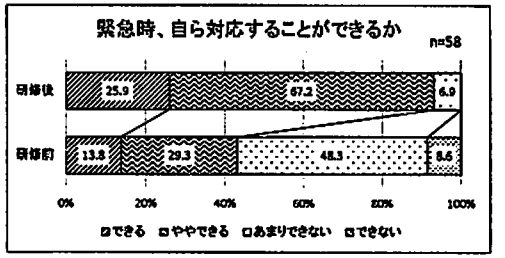
【研修前後の比較】



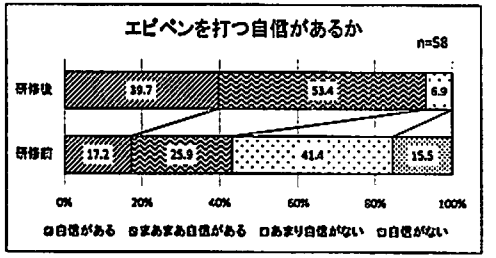
研修前は「できる」と答えた人が 3.4%と低く、「ややできる」と答えた人を合わせても 50%であった。研修後は「できる」と「ややできる」を合わせると 98.3%となり判断できる人が増えた。



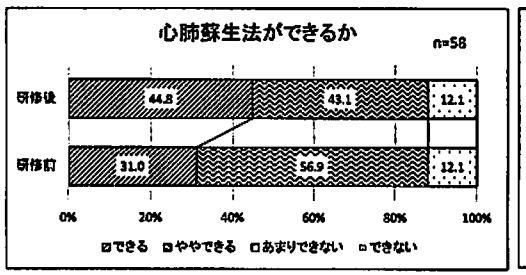
研修前は「理解している」と答えた人が 25.9%であった。研修後は「理解している」と「やや理解している」を合わせると 98.3%となり理解している人が増えた。



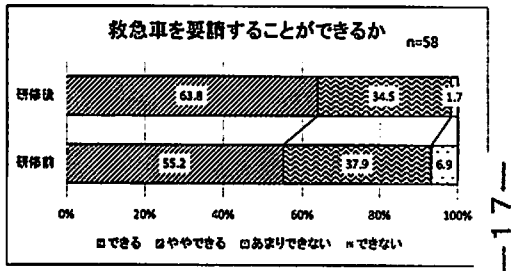
研修前は「あまりできない」と答えた人が 48.3%であった。研修後は「できる」と「ややできる」を合わせると 93.1%となり対応できる人が増えた。



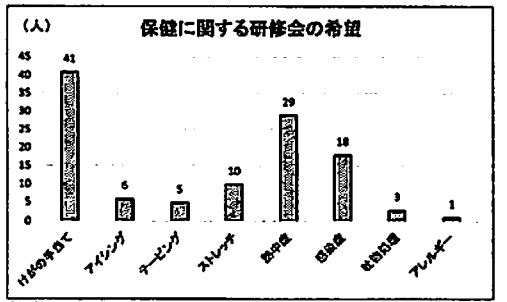
研修前は「あまり自信がない」と答えた人が 41.4%であった。研修後は「自信がある」と「まあまあ自信がある」を合わせると 93.1%となり、エピペンを打つ自信がある人が増えた。



研修前は「できない」と回答した人はいなかった。研修前も研修後も「できる・ややできる」の合計数は変わらなかった。



研修前は「できる」と回答した人は 55.2%であり、他の質問項目の中で最も多かった。研修前も研修後も大きな変化は見られなかった。



応急処置に関するものと危機管理として対応しなければならないものが研修の希望として多くあげられていた。

ミニドラマを視聴し対応方法を考え、シミュレーションで対応の仕方を演じ確認したことにより、判断の仕方や校内体制・役割の理解が深まったようです。いただいた感想には、シミュレーションの必要性や繰り返すことの重要性が多く寄かれていました。

今回は食物アレルギーの研修でしたが、対応方法は、すべての事故発生時に共通するものです。今後も先生方のご協力をいただきながら研修を進めていきたいと思います。ありがとうございました。

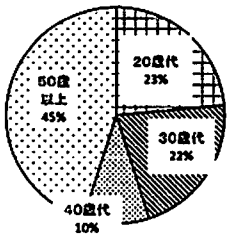
保健部会だより

2016年9月30日発行
大多喜町教育研究会　保健部会

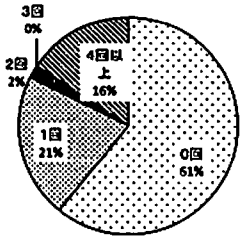
８月１９日（金）に国際武道大学　教授　山本利春先生を講師としてお招きし，「学校現場で多く起こるケガの対応」について町教育研究会主催の研修会が開催されました。
その際，アンケートにご協力いただきまして，ありがとうございました。
アンケートの結果がまとまりましたのでをお知らせいたします。

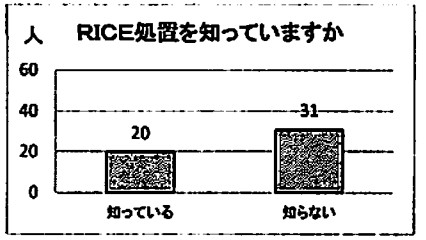
○ 研修参加者（町内小中学校）　５６名
○ アンケート回収数　　５１名

年齢構成



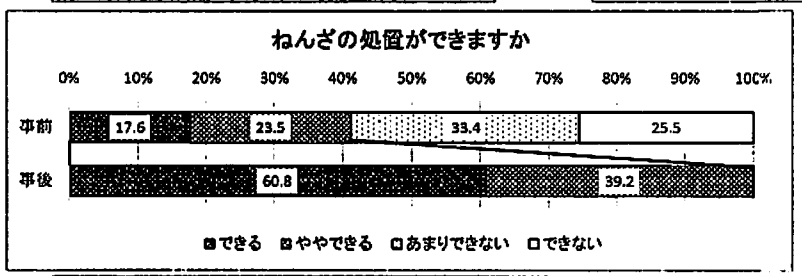
研修を受けた回数



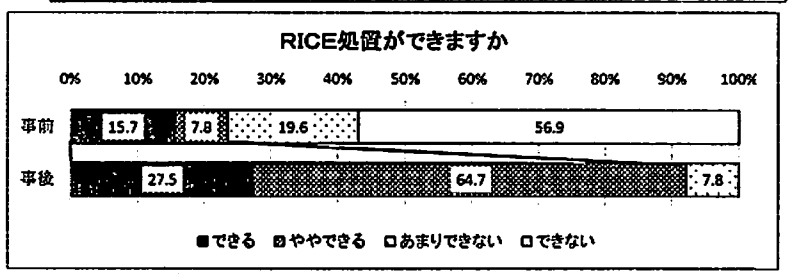


RICE処置の研修を受けたことのない人が61%いた。

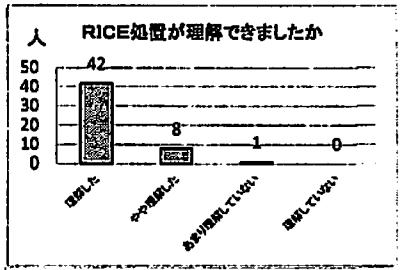
RICE処置を「知らない」と答えた人が多かった。



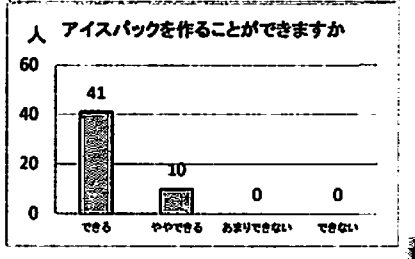
研修前は，ねんざの処置が「あまりできない」また「できない」と答えた人が約59%いたが，研修終了後は，「できない」と答えた人はいなかった。



研修前は，RICE処置が「あまりできない」「できない」と答えた人が約77%いた。研修終了後は，「あまりできない」と答えた人が7．8%だった。

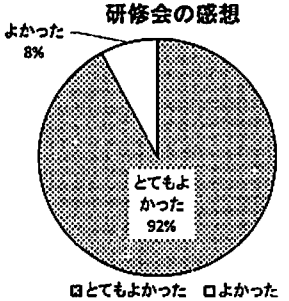


RICE処置を「理解した」「やや理解した」と答えた人が，50人だった。参加したほとんどの人が，RICE処置を理解した。

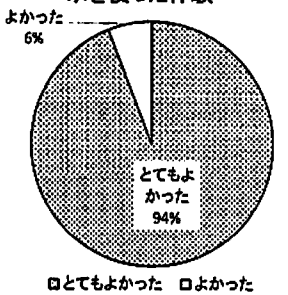


RICE処置に必要なアイスパックを作ることができるようになった人は，「できる」41人，「ややできる」10人で，アンケートに答えた人全員が，アイスパックを作れるようになった。

研修会の感想

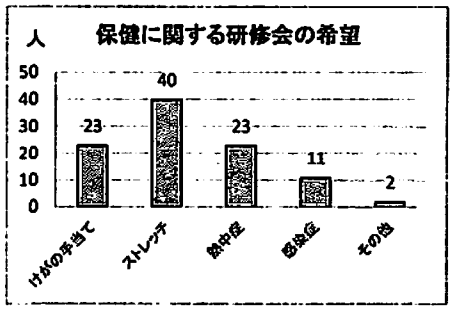


氷を使った体験

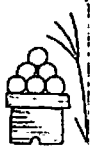


全員が「とてもよかった」「よかった」と評価した。
・話が具体的で，とてもわかりやすかった。
・RICE処置の大切さを理解した。今回の研修は有意義だった。
・部活動の指導者として，知らなければならないことがたくさんあることが分かった。
・日常にいかせることがたくさんあった。

全員が「とてもよかった」「よかった」と評価した。
・空気を吸いだすのが，とても難しかった。
・アイスパックが予想以上にうまくできなかった。作り方がわかったことはよい収穫であった。
・実際に体験して，巻く大変さや冷たさを知ることができた。



製氷機の全校導入があり，今回の研修のきっかけとなりました。
初めて研修する教職員も多く，有意義な研修となり，RICE処置の大切さと製氷機の有効な活用方法が分かったのではないかと思われます。
国際武道大学の山本利春先生に来ていただき研修できたことも，大きな収穫となりました。
今後も児童生徒のために，よりよい研修をつみ，的確な対応ができるよう努めていきたいと思います。
今回の研修会に，ご協力いただいた方々にお礼申し上げます。
また，このような機会を設けられるよう，努めてまいります。



保健部会だより

２０１７年７月２０日発行

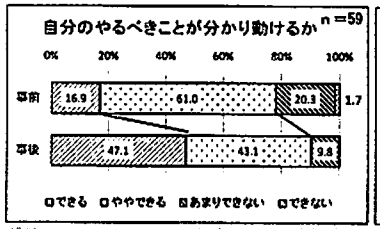
大多喜町教育研究会　保健部会

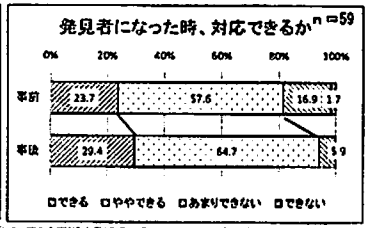
過日は、ご多用の中、心肺蘇生法講習会並びにアンケートにご協力いただきありがとうございました。今回の心肺蘇生法講習会では、事故発生時の職員の動きを確認するためにシミュレーションを取り入れました。アンケート結果や講習会の様子をお知らせします。

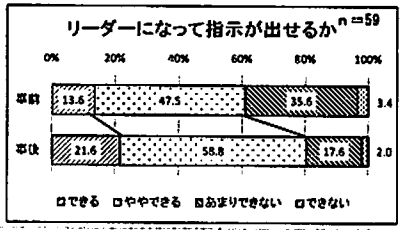
【アンケートの結果】

○各中学校区心肺蘇生法講習会参加者（町内小中学校教職員）６０名

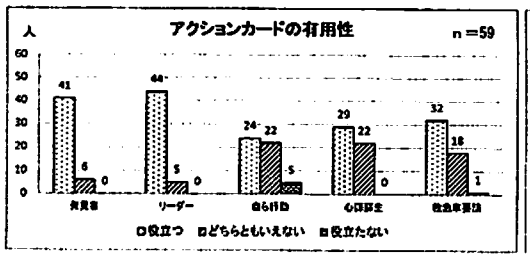
○アンケート回収数　５９名







研修後は、どの項目も「できる・ややできる」割合が増えている。アクションカードは、やるべき行動が明記されているためと思われる。‘自分のやるべき行動が分かり動けるか’については「できる」割合が３倍になった。発見者やリーダーになった場合でも「あまりできない」と躊躇する割合が減った。

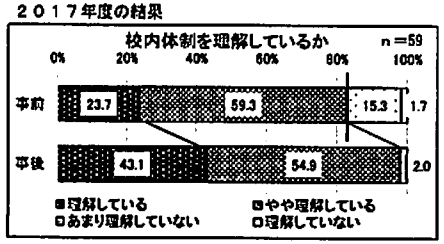


緊急時の対応で「役立つ」資料は、「発見者」と「リーダー」の係であった。アクションカードは、役割分担が明確で行動が指示されているためと思われる。

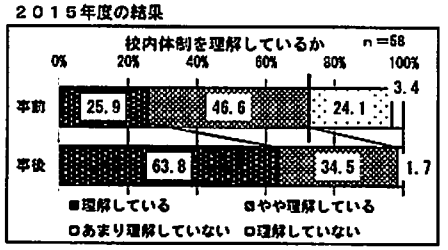
「自ら行動、心肺蘇生、救急車要請」は「どちらともいえない」が多かった。これは、研修をくり返し行っているため、行動が身につき、カードに頼らず行動できるからと考える。

◇実施年度による研修前後の意識調査の比較

２０１７年度の結果



２０１５年度の結果



事前アンケートでは、校内体制について「理解している」割合は２年前に実施したアンケートとほぼ同じであった。これは、毎年教職員の異動により構成が変わることが理由として考えられる。しかし、「理解している」と「やや理解している」までを合わせた割合は今年度の方が１割多くなっている。これは、継続した取り組みにより、わずかながらではあるが成果が現れているのではないかと思う。

大多喜中：頭頸部外傷及び胸部打撲による心肺停止の対応

校内放送により現場に向かう職員

アクションカードの配布

大多喜小：完泳直前で児童の動きが止まり浮いた状態での対応

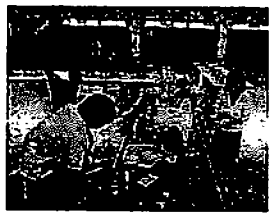
先生の指示により後ろ向きで待つ児童

胸骨圧迫

西中：頭頸部外傷及び胸部打撲による心肺停止の対応

救急車要請

西小：水泳学習中、溺れた児童への対応



人工呼吸

AED　ショック開始

胸骨圧迫

【ご意見・ご感想】

・カードをそれぞれの先生に渡せば役割や行動が明確になってよい。パニックになった時にアクションカードがあると安心する。視覚的（イラスト入り）にわかりやすい。

・落ち着いていればすべてできそうだがアクションカードなし、慌てている時は何か重大なことがもれ落ちそうである。そのような観点から、あると助かる→落ち着く→よい対応ができる。

・アクションカードに頼り過ぎると配られるまでの時間、指示待ちになりタイムラグができてしまう。

・実際に緊急事態が起こった時にうまく活用できるか不安である。

・アクションカードは、いつでもどこでも誰にでもわかるようにしておく必要があった。

・要救助者についての個人情報（名前、性別、学年、生年月日）の共有ができていないので、何か方法を考える必要がある。

・第一発見者が心肺蘇生をするのが一番。AED と心臓マッサージは分けたほうが良い。

【消防署からのご指導】

・心肺蘇生を１名で開始し、応援職員が集まってきたら交代者を含め、複数で実施した方がより効果が得られる。

・AED を実施する際、「通電します、離れて」等の声を大きくし周囲の方に周知させる。

・アレルギー、溺水、外傷等のアクションカードがあるが、事故の状況に合わせたカードを配付し、間違いのないようにする。

先生方からいただいた貴重なご意見やアドバイスを参考に、今後も研修を進めていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。